



海と緑と歴史の恵みに抱かれて…
…出会いから活力の花ひらく町



南越前町総合計画

2007~2016 MINAMIECHIZEN MASTER PLAN



町民指標

愛します 豊かな自然 うみやまさと 海・山・里

つくります すこやかな心とからだ

育てます 助け合う優しい人とまち

伝えます 未来に向けた歴史と文化

は じ め に



南越前町長 増澤善和

私たちのまち南越前町は、平成17年1月1日に、南条町・今庄町・河野村の3町村が合併し、南条郡に1町の「南越前町」として誕生しました。

合併時に策定した「南越前町まちづくり計画」に基づき町民の一体感の醸成に努め、目標である将来像「海と緑と歴史の恵みに抱かれて、出会いから活力の花ひらく町」を目指したまちづくりを進めてきました。

今日、少子高齢化の一層の進展、人口の減少、産業構造の変化、情報技術の高度化、地方分権の推進など、大きな変革期を迎えており、こうした時代背景を的確に捉えつつ、新たな課題に取り組むことが求められています。

こうした変革の時代にあって、新時代にふさわしいまちづくりの方向性を示し、町民の皆様が郷土愛を育み、「町民との協働」のなかでみんなが一緒に力を合わせて創り上げるまちづくりの指針として「南越前町総合計画」を策定しました。

私は、この総合計画を実現するための基本的なキーワードとして「対話」「調和」「融和」を根本にすえた行政サービスの提供を進めたいと考えています。よく話し合いながら政策に取り組み、全体が程よくつりあってまとまりながらまちづくりを進め、心を溶け合わせてひとつにしなが町民や地域社会が主人公の新しいまちを築いていきます。

今後この総合計画を進めるにあたっては、地域に生きづくそれぞれの歴史・文化・伝統を生かし、町民の皆様の参加・参画・協働による効率的で効果的な施策を展開するとともに、行財政基盤の強化に努め、豊かでゆとりのある生活が実感できる魅力的で活力あるまちづくりを進めていきます。

終わりに、この計画の策定にあたり、町民意識調査に貴重なご意見、ご提案を賜りました町民の皆様をはじめ、熱心なご審議をいただきました審議会委員の皆様並びに関係各位に対しまして心から感謝申し上げます。

平成19年3月

総 論	第1章 計画のあらまし		
	1 計画策定の趣旨	7	
	2 計画の名称	8	
	3 計画の構成と期間	8	
	第2章 町のすがた		
	1 地勢	10	
	2 歴史とあゆみ	12	
	3 人口・世帯	14	
	第3章 関連する計画		
	1 関連計画の概要	19	
	2 旧町村の計画	20	
	「未来の南越前町」 未来の南越前町作文コンテスト最優秀作品	21	
	基 本 構 想	第1章 町の将来像	
		1 まちづくりの基本理念	23
2 まちづくりのキーワード		24	
第2章 計画の基本指標			
1 定住人口の目標		25	
2 交流人口の目標		26	
3 土地利用の方向		27	
第3章 ゾーニング別まちづくり			
1 まちづくりエリア		28	
2 まちづくりの交流軸		30	
第4章 まちづくりの5つのプロジェクト			
1 みんなで助け合う優しいまちづくり		31	
2 みんなが安心して暮らせる快適なまちづくり		32	
3 みんなが生きいきと働けるまちづくり		33	
4 みんなで人と文化を育むまちづくり		34	
5 みんなが考え、みんなで取り組むまちづくり		35	
6 まちづくりの体系		36	
「心のバリアフリーに富んだ町」 未来の南越前町作文コンテスト最優秀作品		37	

基本計画の構成

第1章 みんなで助け合う優しいまちづくり

1 健康な心と体づくり、保健・医療・福祉・介護の連携強化と充実	39
2 地域で暮らせる高齢者福祉の充実	42
3 自立を支援する障害者福祉の推進	45
4 子育ての支援、児童福祉の充実と次世代育成	48
5 協力し助け合う地域福祉の推進	50

第2章 みんなが安心して暮らせる快適なまちづくり

1 安全な環境づくり	52
2 道路交通網の整備	56
3 上下水道の整備	59
4 自然環境との共生	61
5 住宅・宅地・住環境の整備	63

第3章 みんなが生きいきと働けるまちづくり

1 農林水産業の振興	66
2 商工業の振興	70
3 観光の振興	72

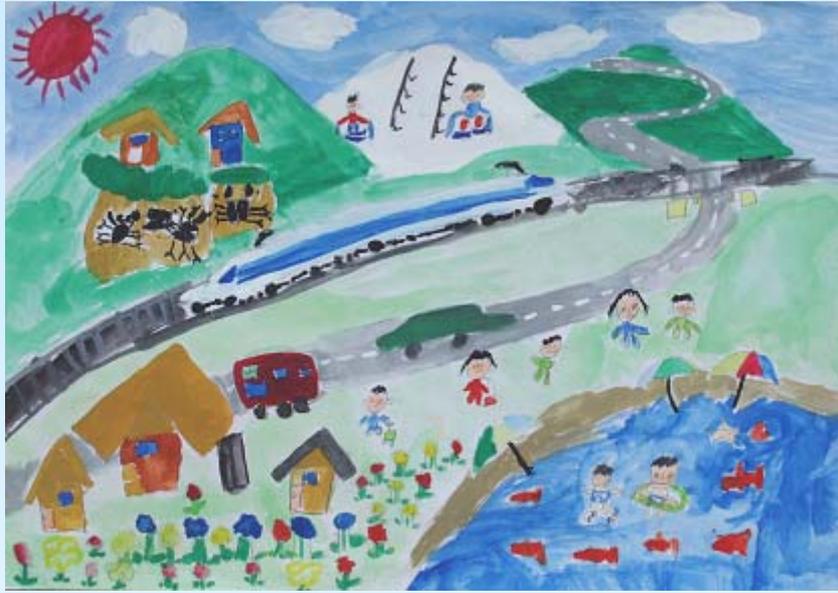
第4章 みんなで人と文化を育むまちづくり

1 豊かな人間性を育む教育の充実と環境の整備	76
2 共に活躍できる人づくり、まちづくり	79
3 生涯にわたる学習社会の充実	81
4 歴史文化の継承と芸術文化の振興	83

第5章 みんなが考え、みんなで取り組むまちづくり

1 町民と行政の協働によるまちづくり	86
2 行財政改革の推進	89

参 考 資 料	総合計画策定にかかる諮問・答申の写し	93
	南越前町総合計画審議会条例	95
	南越前町総合計画審議会委員名簿	96
	南越前町総合計画策定の経過	98
	南越前町のまちづくりに向けた住民意向調査結果報告書	103



未来の南越前町図画コンテスト（小学校1～2年生の部）最優秀賞 網田浩人さん

総論

- 第1章 計画のあらまし
- 第2章 町のすがた
- 第3章 関連する計画

第1章 計画のあらまし

1 計画策定の趣旨

平成16年3月に南条郡の南条町・今庄町・河野村は、3町村合併後の「南越前町」のまちづくりの指針となる新町建設計画「南越前町まちづくり計画」を策定しました。

この計画は、基本理念を「～海と緑と歴史の恵みに抱かれて、出会いから活力の花ひらく町～」と定め、合併による効果を最大限に創出するために必要な施策を明確にし、その実現により速やかな一体化を促進するとともに、地域の発展と町民福祉の向上を図ることとし、新町建設計画の目標年次を平成26年度と定めています。

しかしながら、「南越前町まちづくり計画」における推計値を超える人口の減少や、少子高齢化の加速度的な進行、町村合併により行政区域が拡大したことに加え、合併協議による行政サービス水準の向上、負担の軽減などの調整結果により、行政需要が増大したことで「南越前町まちづくり計画」における財政計画上の歳出と、実際の歳出の乖離が発生していることに加え、「三位一体の改革」をはじめとした地方分権の推進による依存財源の減少などにより、厳しい行財政環境に直面しています。

このような町を取り巻く状況のなか、これまでの「行政主導・町民参加」のまちづくりから「町民主体・行政支援」の新たなまちづくりの仕組みを構築し、町民と行政が協働してまちづくりを進め、将来にわたり、先人から受け継いだ豊かな地域資源の保全と活用を図り、すべての町民が安全に安心して暮らすことができる地域社会の実現を目指し、総合的、計画的な行政運営を図るために「南越前町総合計画」を定めま

2 計画の名称

この計画の名称は「南越前町総合計画」とします。

3 計画の構成と期間

この計画は、「基本構想」「基本計画」「戦略プラン」により構成しています。

基本構想

新町建設計画「南越前町まちづくり計画」の基本理念を継承し、地域発展に向けた指針と、真に豊かなふるさと「南越前町」の実現に必要な大綱を示します。

計画期間 10年

平成19年度（西暦2007年）～平成28年度（西暦2016年）

基本計画

基本構想に定められた大綱に基づき、市町村合併による効果を最大限に創出するために新町建設計画「南越前町まちづくり計画」の基本施策を尊重し、国・県事業との連携を保ちながら、本町の総合的かつ一体的な整備に必要な施策について定めます。

計画期間 10年

平成19年度（西暦2007年）～平成28年度（西暦2016年）

戦略プラン（実施計画）

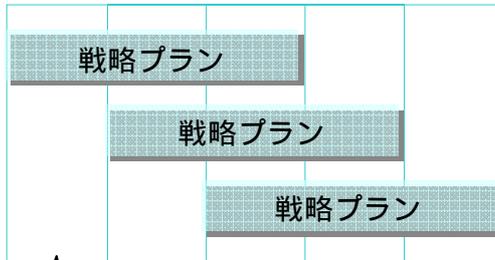
基本計画に掲げる施策を戦略的かつ重点的に実施するための実施計画を具体的に定め、毎年度向こう3年間を計画期間とし、これを毎年見直すローリング計画とします。

計画期間 3年

計画の期間

基本構想

基本計画



▲
平成19年度
(2007年度)

▲
平成28年度
(2016年度)

第2章 町のすがた

1 地勢

南越前町の位置（東経 136°12′ 北緯 35°50′）

本町は、福井県のほぼ中央、嶺北地域の南端に位置し、北は、越前市、越前町と池田町、東および南は岐阜県・滋賀県、西は敦賀市と日本海に接する山・海・里の地形の変化に富んだ自然豊かな町です。

町土面積は福井県全体の 8.2%にあたる 343.84 km²を有します。

地形は極めて急峻であり、総面積の約 92%が山林で占められ、海岸部は、標高差 200～300m平均斜度 35 度の甲楽城断層と呼ばれる断層海岸ですが、冬は、「越前加賀海岸国定公園」にも指定されている海岸線一帯に、越前水仙の可憐で清楚な花が咲き誇ります。

また、田倉川や鹿蒜川などが合流した日野川が町の中央を南北に流れ、河川沿いに田園風景が広がります。

気候は、平野部と山間部、海岸部で大きく異なります。平野部は、内陸型で平均気温が 14 前後ですが、山間部は寒暖の差が激しく、県下有数の多雪地帯で、昭和 51 年には特別豪雪地帯に指定されています。

一方、海岸部では、対馬海流の影響により平均気温が 15 前後の温暖な気候で、降雪量もほとんどありません。交通条件については、県内の同規模の町と比較しても比較的優位な条件を具備しています。

道路は、北陸自動車道や国道 8 号、国道 365 号といった北陸地方と関西・中京方面を結ぶ動脈となる道路が町の南北を縦走し、北陸自動車道今庄 I C、南条 S A が設置されており、周辺地域における広域高速交通の利便性が確保されています。

福井県の嶺北地方と嶺南地方を結ぶ国道 476 号は、本町と敦賀市を結ぶ木ノ芽峠トンネルが平成 16 年 3 月に開通したことから、嶺南地域との交通利便性が飛躍的に向上しただけでなく、現在計画中の近畿自動車道敦賀線の延伸による関西方面との交流の活発化が期待されています。

また、「越前加賀海岸国定公園」に指定されている海岸線に沿って主に観光道路として利用されている河野海岸有料道路が、国道 305 号や県道大谷杉津線と連絡し、敦賀市との間を結んでいます。

しかし、石川県金沢市を起点に越前海岸に沿って本町に至っている国道 305 号は、本町内の河内～奥野々間が交通不能となっているため、町内における東西の円滑な交流の障害となっているとともに、町外からの流入が促進されず、広域的かつ一体的な地域振興を図るうえで大きな課題となっています。

鉄道は、JR北陸本線が幹線道路同様に南北に縦走し、町内には南条、湯尾、今庄、南今庄の4駅が設置され、福井市・越前市方面や敦賀市方面に向かう通勤通学をはじめとする日常生活に欠かせない役割を果たしています。

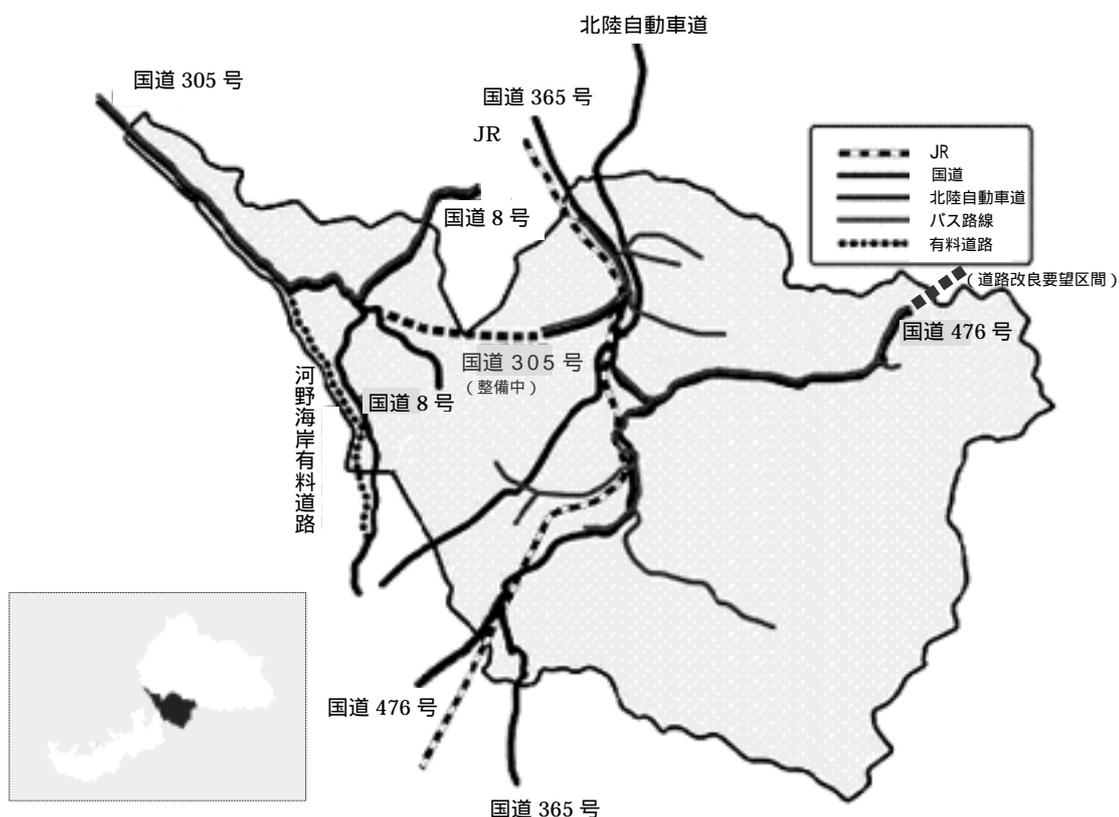
路線バスは、本町の河野地区と越前市、越前町を結ぶ民間の路線バスが運行されています。

また、地域内における公共交通の格差是正と、合併後の速やかな一体化を図るために、南越前町コミュニティバスを運行しているほか、地形の特性や、利用者の目的に合わせた住民利用バスや福祉バスを運行しています。

特筆すべき本町の社会的条件としては、「原子力発電施設等立地地域の振興に関する特別措置法」において、原子力発電施設等立地地域に指定されているため、原子力防災については、福井県地域防災計画に基づき、緊急時の通信連絡体制の確立を図るなど、安全・防災対策に重点的に取り組んでいるとともに、公共用施設の整備等を進め電源地域の地域における生活環境の整備や住民福祉向上を図ってきました。

越前加賀海岸国定公園

名称	延長	全体面積	概要
越前加賀海岸国定公園	108 km	9,246 ha	石川県加賀市から福井県敦賀市までの海岸線を中心に指定された国定公園で、甲楽城断層を境とした隆起海岸のため、海蝕崖や奇岩が多く見られます。



2 歴史とあゆみ

平安時代に敦賀から木ノ芽峠を越える「北陸道」が開かれ、近世には栃ノ木峠越えの「北国街道」が整備されるなど、都と北陸を結ぶ陸路の玄関口でした。また、南北朝時代には杣山に「瓜生 保」が居城するなど戦略上の要衝であったとともに、今庄や鯖波、脇本には本陣が置かれるなど宿場町としても賑わいました。

また、海路は、中世に敦賀湊と河野浦などが結ばれ、江戸時代中期から明治時代中期にかけ、蝦夷地（北海道）をはじめとした日本海諸港と瀬戸内・大阪を西廻り航路で往来した「北前船」によって、海運業が栄えました。

明治 19 年に、白崎村から春日野トンネル（春日野隧道）を経て具谷、大谷を抜け、当時の敦賀郡旧東浦村に通じる旧国道 8 号である春日野新道が完工され、それまで嶺北と嶺南の分水嶺であった木ノ芽峠に変わり、両地域の交流の主軸となりました。

明治 29 年には、町の中央の日野川に沿うように国鉄北陸本線が開通し、今庄駅には機関区が置かれ、「鉄道のまち」として賑わいをみせましたが、昭和 37 年の北陸トンネルの開通と複線電化により、今庄機関区は、その役割を終えました。

昭和 43 年には、河野海岸線一体が「越前加賀海岸国定公園」に指定されるなど、風光明媚な海岸線と、越前ガニや越前水仙などを求めて多くの観光客が訪れるようになりました。

昭和 52 年 12 月に北陸自動車道が開通し、福井県内で唯一、南条 SA が設置されるとともに今庄 IC が開設され、地域経済の発展や余暇活動の活発化などに影響を与えました。

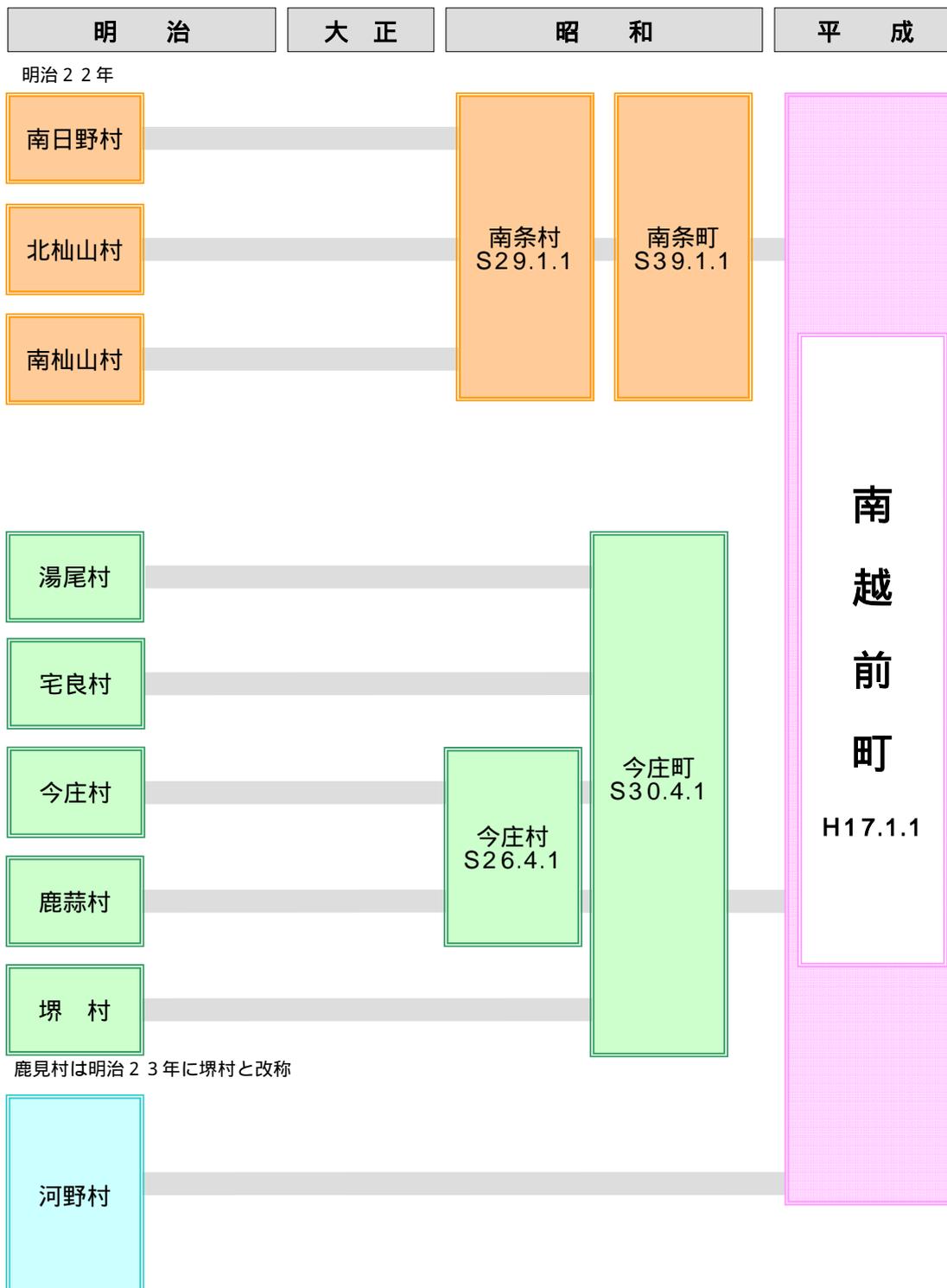
市町村合併の変遷は、明治 22 年、市制町村制の制定により、現在の南越前町を構成することになる南日野村、北杣山村、南杣山村、湯尾村、宅良村、今庄村、鹿蒜村、堺（鹿見）村、河野村が誕生しました。

その後、昭和 26 年に今庄村と鹿蒜村が合併し今庄村となり、昭和 29 年には南日野村、北杣山村、南杣山村の 3 村が合併し南条村が誕生しました。

昭和 30 年には湯尾村、宅良村、今庄村、堺村の 4 村が合併し今庄町となり、南条村は、昭和 39 年に町制を施行し、南条町となりました。

そして、平成 17 年 1 月、南条町、今庄町、河野村が合併し、「南越前町」となり、現在に至っています。

町村合併の経緯

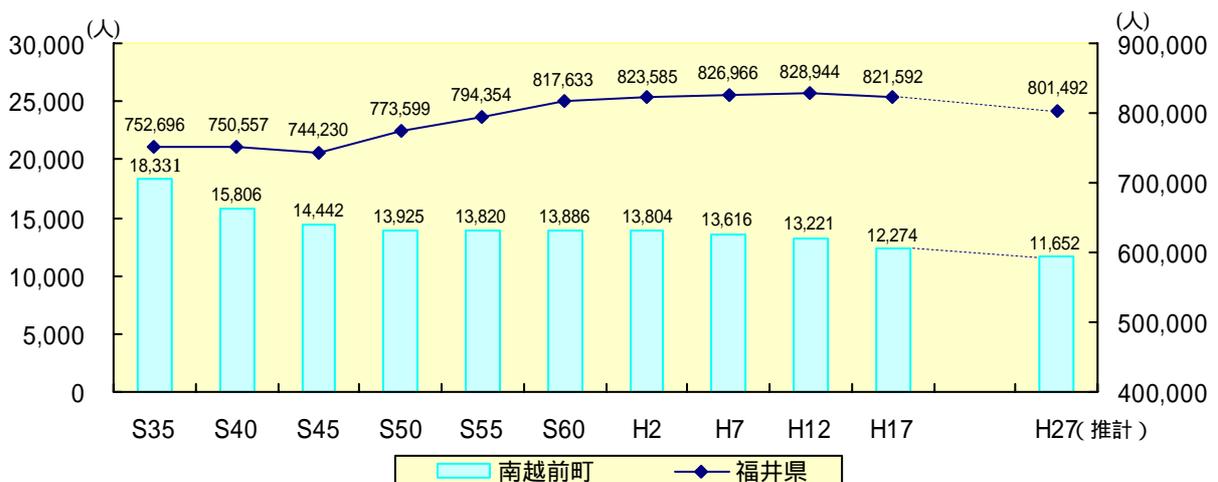


3 人口・世帯

人口の推移

平成17年10月1日現在の国勢調査によると総人口は12,274人で、福井県の人口の1.5%を占めています。昭和35年ピーク時点の人口18,311人と比べて45年間で6,037人、33.0%減少しており、現在のペースで推移した場合、平成27年には11,652人になると推計されています。

□ 人口の推移



平成27年推計値は人口問題研究所による推計値

資料：国勢調査

□ 人口動態の推移

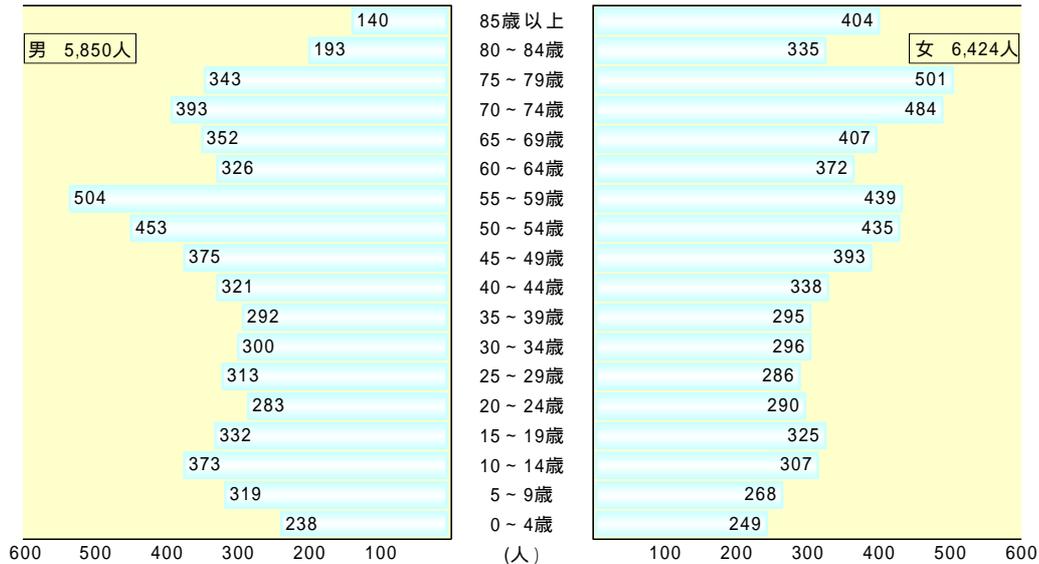
項目		平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年
自然動態	出生	108	107	101	95	112
	死亡	152	132	123	149	139
	増減	44	25	22	54	27
社会動態	転入	314	274	295	287	240
	転出	370	371	397	357	353
	増減	56	97	102	70	113
差引増減		100	122	124	124	140

資料：福井県統計年鑑(各年10月～9月)

年齢構成

平成17年10月1日現在の国勢調査による年齢5歳階級別の男女別人口構成を見ると、男性では55歳～59歳、女性では75歳～79歳を頂点としてM字型の分布となっており、中でも20歳～39歳のいわゆる子育て世代や0歳～9歳の子供の数が少なくなっています。

■ 年齢(5歳階級)男女別人口

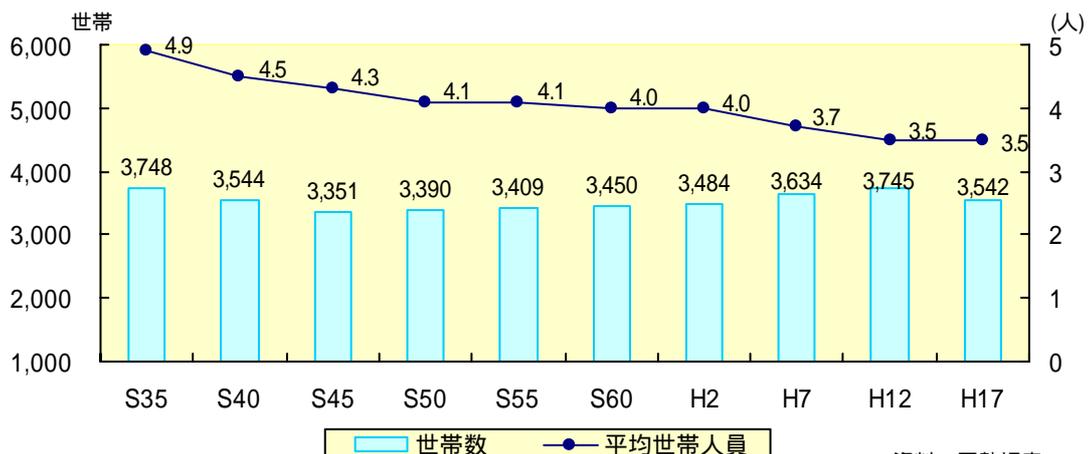


資料：国勢調査

世帯数等の推移

平成17年10月1日現在の国勢調査によると世帯数は3,542世帯で、昭和45年から平成12年まで増加していましたが、その後減少傾向にあります。平均世帯人員は昭和35年の4.9人から平成17年には3.5人と年々減少しており、核家族化が進んでいます。

■ 世帯数・平均世帯数人員の推移



資料：国勢調査

人口・世帯等の推移

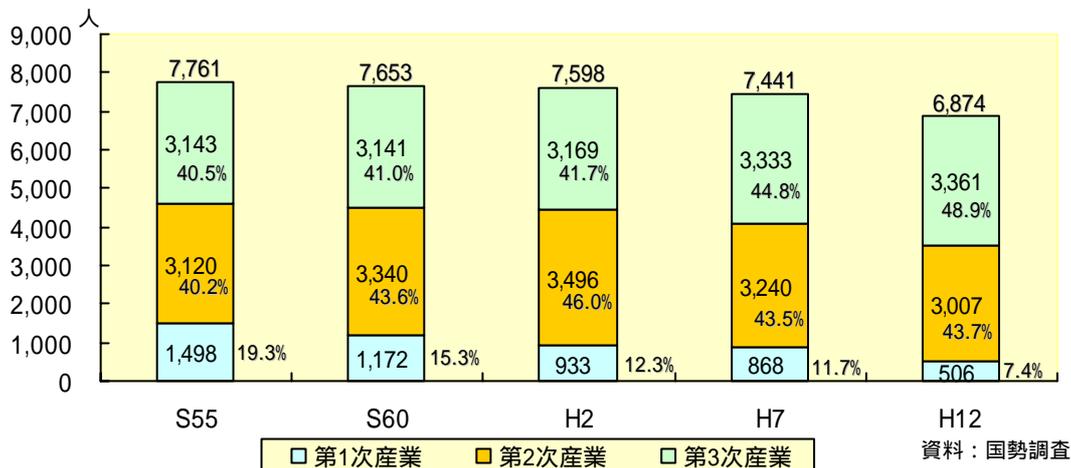
項目		昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年
人口 (人)	南越前町	13,886	13,804	13,616	13,221	12,274
	(うち男性)	6,695	6,628	6,555	6,437	5,850
	(うち女性)	7,191	7,176	7,061	6,784	6,424
	福井県	817,633	823,585	826,966	828,944	821,592
人口密度(人/km ²)		40.4	40.1	39.6	38.5	35.7
年齢別 人口 (人)	年少人口 0歳～14歳 (20.4%)	2,831 (20.4%)	2,608 (18.9%)	2,355 (17.3%)	2,031 (15.4%)	1,754 (14.3%)
	生産年齢人口 15歳～64歳 (63.7%)	8,845 (63.7%)	8,675 (62.8%)	8,236 (60.5%)	7,750 (58.6%)	6,968 (56.8%)
	高齢人口 65歳以上 (15.9%)	2,210 (15.9%)	2,521 (18.3%)	3,025 (22.2%)	3,440 (26.0%)	3,552 (28.9%)
世帯数	南越前町(世帯)	3,450	3,484	3,634	3,744	3,542
	平均世帯人員	4.0	4.0	3.7	3.5	3.5
就業 人口 (人)	第1次産業 (農業・林業・水産業) (15.3%)	1,172 (15.3%)	933 (12.3%)	868 (11.7%)	506 (7.4%)	
	第2次産業 (鉱業・建設業・製造業) (43.6%)	3,340 (43.6%)	3,496 (46.0%)	3,240 (43.5%)	3,007 (43.7%)	
	第3次産業 () (41.0%)	3,141 (41.0%)	3,169 (41.7%)	3,333 (44.8%)	3,361 (48.9%)	
	分類不能 () (0.1%)	2 (0.1%)				

1...電気・ガス・水道業、卸売・小売業、金融・保険業、運輸・通信業、サービス業、政府サービス生産者、対家計民間非営利サービス生産者
資料：国勢調査

産業別就業人口の推移

平成12年の国勢調査によると、本町では、6,874人が就業しており、第1次産業人口が7.4%、第2次産業人口が43.7%、第3次産業人口が48.9%を占めています。昭和55年を100とすると、全体では89と減少しており、その中でも第1次産業は34、第2次産業は96と減少しています。しかし、第3次産業は107と増加しています。

産業別就業人口



産業構造

基幹産業である第1次産業をはじめとして、経営基盤の脆弱な中小企業を中心とした第2次産業、小売業がほとんどで商業集積度が低い第3次産業のいずれも、労働者の高齢化・後継者不足によって衰退傾向にあります。

農業は、町の中央を南北に流れる日野川沿いの両岸に、圃場整備された田園が広がり、稲作を中心に、「花はす」や「そば」などが栽培されているほか、海岸部においては、稲作に変わる振興作物として「梅」、「水仙」が栽培されています。

しかし、山間部における農地の集約、集団化が難しいことや、担い手の高齢化、農産物の輸入自由化など近年の農業を取り巻く環境の変化により、農業産出額の減少傾向が続いています。

林業は、町土の約9割を占める山林で優良材の杉やヒノキが生産されていますが、近年の木材価格の低迷と、林家の高齢化により森林管理が困難になっています。

水産業は、定置網漁業が中心になっているが、漁獲量が不安定であることに加え、価格が市場の影響を受けやすいなどの問題を抱えています。

商業は、商業集積度が低いことに加え、近年の消費者ニーズの多様化や近隣市への大型量販店の進出が背景にあり、1店舗あたりの販売額は、全県平均と比べ小規模となっています。

工業は、北陸自動車道今庄ICを中心に複数の企業が立地していますが、事業所のほとんどが小規模で、社会経済の動向に左右されやすい不安定要素を含み、厳しい環境の中で各企業の自助努力によって経営されています。

農業の推移

項目		平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年
農業従業人口(販売農家) (人)		1,204				911
地目別面積	田 (ha)	1,058	1,054	1,051	1,049	1,045
	畑 (ha)	154	153	152	150	150
水稻	作付面積(ha)	748	728	717	709	716
	収穫量 (t)	3,606	2,408	3,364	2,989	3,521
農業産出額 (百万円)	米	953	920	861	963	868
	野菜	150	157	155	139	142
	果実	81	55	67	81	71
	花き	36	53	36	26	15

農業産出額...農業生産によって得られた農畜産物とその農畜産物を原料として作られた加工農産物を販売して得られた利益額。

資料：福井県統計年鑑

□ 総生産の推移

(百万円)

項目		平成11年	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年
第1次産業	農業	347	448	452	673	681
	林業	124	51	54	48	39
	水産業	220	131	155	290	277
第1次産業 小計		691	630	661	1,011	997
第2次産業	鉱業	230	363	341	400	419
	建設業	6,722	10,563	12,434	8,041	8,222
	製造業	3,534	4,051	3,057	4,523	5,241
第2次産業 小計		10,486	14,977	15,832	12,964	13,882
第3次産業	卸売・小売業	1,177	1,124	945	1,212	1,096
	金融・保険・不動産業	4,183	4,894	4,845	6,998	6,757
	運輸・通信業	696	932	856	1,331	1,063
	電気・ガス・水道業	709	629	946	1,039	1,027
	サービス業	4,629	5,060	4,330	3,290	3,351
	公務	2,981	2,580	2,449	5,430	5,426
第3次産業 小計		14,375	15,219	14,371	19,300	18,720
合計		25,552	30,826	30,864	33,275	33,599

資料：福井県統計年鑑

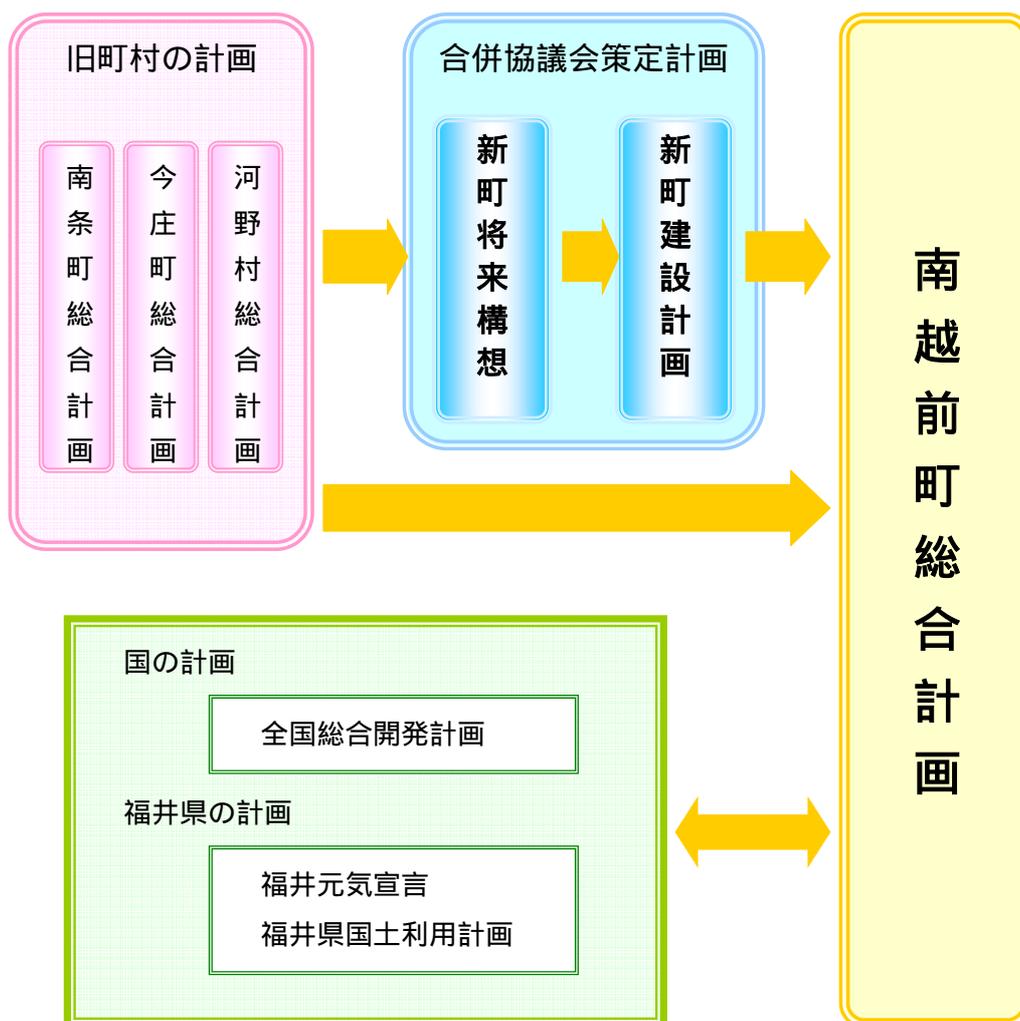
第3章 関連する計画

1 関連計画の概要

総合計画に関連する計画には、旧3町村が策定した計画のほか、国の計画や福井県の計画、合併に伴って策定した計画等があります。

総合計画を推進していくうえで、これらの関連計画との整合性を図っていく必要がありますが、特に旧3町村が策定した計画と新町建設計画との連続性を重視していく必要があります。

■ 南越前町総合計画と関連計画



2 旧町村の計画

旧3町村は、それぞれ地方自治法第2条第4項の規定に基づく基本構想（総合計画）を定めていました。10年間の計画期間となっており、それぞれ次のような将来像を掲げ、計画的な施策展開を図ってきました。

南条町...人かがやき、花さきみだれる、安らぎの郷、南条

今庄町...夢ふくらむ“新起源”交流のまち 今庄

河野村...河野村 21世紀への航路 出船賛歌

旧町村の総合計画

旧町村名	南条町	今庄町	河野村
計画名	第4次南条町総合発展計画	第4次今庄町総合振興計画	河野村総合計画
計画期間	H7～H16(10年間)	H9～H18(10年間)	H7～H16(10年間)
将来像	人かがやき、花さきみだれる、 安らぎの郷 南条	夢ふくらむ“新起源” 交流のまち 今庄	河野村 21世紀への航路 出船賛歌
方針	生活基盤の整備	みどりのなかで心が通じ、共に 生きるまち	健康で心豊かな福祉の村を築く
	生活環境の整備	人情深く、味わい人を育むまち	人材を起こし、育てる
	社会福祉の充実	誰もが自分の心のふるさとと 感じられるまち	村の産業を興す
	産業の振興	自然と調和し、新しい活力を生み出す 産業を育成するまち	自然を生かし、自然と共生する
	教育・文化の振興	バイタリティあふれ心ときめく 交流のまち	快適な生活環境を作る
	計画の実現に向けて		村民参加のむらづくり

「未来の南越前町」

南条小学校六年 北田絵莉子

平成十七年一月一日、南越前町が誕生しました。私は、はじめ、合ぺいに反対でした。その理由は、大好きな南条町がなくなるのがさみしかったからです。しかし、合ぺいをして八ヶ月がたち、旧河野村や、旧今庄町のことが分かってきて、合ぺいをしてよかつたなど、思えるようになりました。旧河野村は、海があり、景色がとても美しいです。旧今庄町は、宿場町として栄え歴史のある場所がたくさんあることを知りました。このように南越前町が、とても自然豊かな町で、歴史深い町であることをほりに思うようになりました。そして、もっともつとよい町にするために私は三つのことを考えました。

まず一つ目は、明るくて、元気な町にすることです。「近所の人や友達に元気なあいさつをする町、みんな笑顔で元気に暮らす町」にしたいです。

二つ目は自然を大切に作る町です。南越前町は自然が豊かで春夏秋冬と季節の変化を通じて感じることができます。この美しい山や川や海をいつまでも大切にしたいです。また、今よりも、もっと緑を増やして、もっとみんなに自然を大切にするという気持ちを持つてほしいです。

三つ目は活力ある地域産業を育てる町です。私が考えたのは、観光についてです。合ぺいをして三つ自慢できる場所があります。南条のあざやかな色をした花はす、今庄の楽しいスキー場、河野の美しい海。これら三つを、アピールして、もっと観光地として有名になり全国各地からお客さんが来るといいなと思います。

最後に未来に向かって南越前町が発展するため一番大切なことは、これから大人へと育つていく私たちが心を一つにして、協力し助け合つて、この町を大切にしたいことだと思います。私は、南越前町が大好きです。